タイトル	音楽がつなぐ笑顔の世界
作成者(著者)	前田知子
作成者(ヨミ)	マエダ、トモコ
出版社・団体	下関短期大学保育学科
出版社・団体(ヨミ)	シモノセキタンキダイガクホイクガッカ
Nii資料タイプ(区分)	研究報告書(教育実践記録等)
ISSN	—
掲載誌名	第38回　下関短期大学保育学科　創作発表会研究発表要旨集
巻・号	—
開始ページ	2
終了ページ	5
発行日	2025/12/13

下関短期大学
〒750-8508　山口県下関市桜山町1-1

Copyright©2025 Shimonoseki Junior College All rights Reserved.

音楽劇「音楽がつなぐ笑顔の世界」

下関短期大学　保育学科　（担当教員：前田知子）

音楽表現コース ２年　　小山　隼弥、林　もえ、古谷　亜桜祈、松田　千佳、
水谷　祐輝、村上　祥太、村田　果鈴
１年　　中沼　優妃、山口　あおい、行廣　來夢、吉田　くるみ

1. 研究の目的

本コースでは、感性豊かで主体的な保育者としての技術を習得することを目指し、音楽の構成理解や楽器演奏技術の習得、表現力の向上を通じて、合奏・合唱の指導法を学ぶ。また、音楽表現力やコミュニケーション能力を高めることを目的としている。具体的には、題材を選定し、演奏や発声の基礎を学ぶとともに、保育現場での楽器活用を意識しながら、生演奏によって豊かな音楽の世界を表現する能力を育むことを研究目標としている。

2.　研究の方法

１）テーマ・題材の選定について

テーマ・題材選定の際、以下の要素を重視した。

・音楽の存在意義を共通したうえで、子ども達が笑顔になれる選曲であること。
・幼児から大人まで幅広い年齢層に親しまれる作品から音楽を取り入れミュージカルのような演出ができること。
・魅力的なキャラクターが登場する作品であること。

これらの要素を踏まえ、テーマを「音楽がつなぐ笑顔の世界」と設定した。

２）選曲について

楽曲を選定する際には、以下の点を考慮した。

・人気が高く長きにわたり愛されている楽曲であること。
・独唱、重唱、合唱などの形式で多様なパフォーマンスが可能であること。
・歌詞の内容がテーマと一致していること。

これらの条件を満たす楽曲として、ディズニー映画の中からテーマに合う楽曲を選び、更に幅広いキャラクターから役割分担を行った。

本プロジェクトにおいて、以下の６曲を選曲しテーマや物語に基づいた演奏形式を決定した。

① 君も飛べるよ（ピーターパン）

ピーターパンがウェンディたちに「空を飛ぶ方法」を教える場面で歌われる。ピーターパンはダーリング家の子どもたち（ウェンディ、ジョン、マイケル）をネバーランドへ誘い、子どもたちは初めて空へ飛び立つ。ロンドンの街を越え、星空へ向かっていく様子は、映画の中でも特にワクワクする名場面である。

空を飛ぶために必要なのは、「楽しい気持ち」「信じる心」「ティンカーベルの妖精の粉」。

前向きな気持ちと想像する力があれば、誰でも不可能を可能にできるというメッセージが込められている。

聴く人を心から笑顔にしてくれる一曲である。

・形式：ピーターパンの独唱
・楽器編成：ピアノ、ウィンドチャイム

② 輝く未来（塔の上のラプンツェル）

ラプンツェルとユージーン（フリン）がランタンの湖でデュエットする、とても印象的なシーンで使われている。王国の″灯籠の祭り″の夜、ボートの上で向かい合う二人のまわりに、無数のランタンが夜空へ舞い上がる。その美しい瞬間に、二人の気持ちが通じ合うという、映画屈指のロマンチックな場面で歌われる。

原題 ″I See the Light″ は、「光が見える＝真実や希望が見えてきた」という比喩になっている。

本当に大切なものに気づき、迷いが晴れて未来が明るく感じられる瞬間を歌った曲であり、お互いの存在が人生を照らす光となる、幸せな笑顔になれる一曲である。

・形式：ラプンツェルとフリンの二重唱
・楽器編成：ピアノ、ウィンドチャイム、カバサ

③　大人になったら（アナと雪の女王２）

オラフが仲間たちといっしょに″魔法の森″を訪れ、不思議な出来事・ちょっと怖い体験をしたあとに流れることが多い。

オラフが「今は怖い」「わけがわからない」と感じているけど、それを″いつか大人になったらわかる、大丈夫″という希望に変えて歌う。

この曲は物語の中で″変化と成長″というテーマを際立たせる役割も持っており、「成長」「過去-現在-未来」「変化と向き合うこと」を表現している。笑顔で生きようとする思いが伝わる一曲である。

・形式：オラフの独唱
・楽器編成：ピアノ、ウィンドチャイム
　　アコーディオン

④　ハイ・ホー（白雪姫）

7 人のこびとたちが採掘の仕事へ出かけたり、帰ったりするときに歌う曲である。

ハイ・ホー」とは、「さぁ行こう！」「えいほー！」といった掛け声のような意味をもち、こびとたちがリズムよく「ハイ・ホー♪」と歌いながら道を歩くとても印象に残りるシーンである。思わず一緒に連なって歩きたくなるような笑顔になれる一曲である。

・形式：こびとたちの斉唱
・楽器編成：ピアノ、トライアングル、
　　カホン、アゴゴベル

⑤　アンダーザシー（リトルマーメード）

カニのキャラクター・セバスチャン が、主人公アリエルに「海の世界の楽しさ」や「海の暮らしの素晴らしさ」を明るく楽しく教える場面で歌われる曲である。

歌詞には「海の方がずっと楽しいよ！」「陸にあこがれるなんてもったいない」と海の仲間たちからのメッセージが込められてる。

音楽はカリプソ（カリブ海の音楽）風の軽快なリズムが特徴で、明るくてノリがよく、南国らしい雰囲気にあふれている。思わず体が揺れて笑顔になれる一曲である。

・形式：セバスチャンの独唱
・楽器編成：ピアノ、木琴、カホン、
　　マラカス

⑥ 小さな世界

It's a Small World」は、ウォルト・ディズニーが″世界中の子どもたちが仲良く平和に暮らす世界″をテーマに作ったアトラクションのために誕生したテーマソングである。

歌詞では、国や文化が異なっていても、私たちは同じ地球に暮らす仲間であり、みんな兄弟のような存在であることが歌われている。そこには、世界がひとつにつながり、平和でありますようにという願いが込められている。

覚えやすいメロディと前向きな世界観が特徴で、聴く人の心を温かくし、笑顔が広がる一曲である。

・形式：合唱
・楽器編成：ピアノ、カホン、すず
　　ウィンドチャイム

3. 研究内容について

音楽表現コースの学生を主体に、以下のような形で進めていった。

１）使用楽器について

原曲の雰囲気を再現しつつ、保育現場でも活用できる楽器を選定した。鈴、トライアングル、ウィンドチャイムなど、子どもたちにも馴染みのある楽器を取り入れ、弾き語り用の楽譜をアレンジし、楽器同士の音のバランスと曲に合う表現を研究した。保育現場での実践にも応用できる内容となるよう工夫した。

２）台本について

物語は、主人公のしょうたとピーターパンが、歌うことが大好きな生き物たちと出会い、笑顔あふれる世界を旅するストーリーで展開する。

物語の柱となるのは、ピーターパンとの出会いをきっかけに、しょうたが今まで知らなかった「空・海・陸」の世界へと踏み出し、音楽と友情によって自分の笑顔を取り戻していく旅である。

音楽は人と人をつなぎ、音楽によって笑顔の世界が広がっていく。その中には「小さな

世界」が込めた平和のメッセージも重ねられている。

この台本は、2 年生の古谷亜桜祈さんが作成し、キャラクターの個性や楽曲の雰囲気が最大限に活きるよう工夫が施されている。

3）キャスティングについて

配役はオーディション形式で決定した。審査員は声楽家の教員 1 名と台本作成者の計 2 名で担当した。審査基準は以下をもとに評価した。

·評価基準： 歌唱の技術
（音程・リズム・発音）
楽曲に対する表現
（感情・創意工夫）

【キャスト一覧】

・しょうた（主人公）：村上　祥太
·ピーターパン：山口　あおい
· ラプンツェル：林 もえ
・フリン：水谷　祐輝
・オラフ：村田　果鈴
・こびと：小山　隼弥
中沼　優妃
行廣　來夢
· セバスチャン：古谷 亜桜祈

【ファースト演奏者】

・君も飛べるよ：吉田　くるみ
・輝く未来：行廣　來夢
・大人になったら：古谷 亜桜祈
・ハイ・ホー：松田　千佳
・アンダーザシー：吉田　くるみ
・小さな世界：古谷 亜桜祈



写真　練習する様子

5）演出について

演出面では、台本作成者の古谷亜桜祈が中心となり、物語や曲の雰囲気に合わせて舞台を構成した。また全員で場面設営の担当を決め、村上祥太を中心に制作し、場面の世界観を視覚的に演出した。さらに、他コースのメンバーに協力を依頼し、照明効果を活用して舞台を彩り豊かにした。

6）大道具・小道具・衣装制作について

舞台背景は照明の光の角度によって変化するホイルカラー折紙を壁面に何百枚貼り、どの場面でもイメージしやすいよう、1 枚の壁面で演出。

衣装については、各キャストがキャラクターに合うものを考案し、自身で準備したドレスを持ち寄り、各キャストが持ち寄った衣装にアレンジを加えるなど、役の表現にプラスされることで観客の没入感を引き出すことができると考えた。

4. 研究の結果

今回のプロジェクトでは、各楽曲のテーマとメッセージ性を最大限に引き出すため、生演奏と台本を組み合わせた音楽劇に挑戦した。結果として、以下の成果と課題が得られた。

1）成果

· 総合芸術の魅力を体感
歌とピアノ演奏を中心に、演技・舞台装飾・演出を含めた総合的な表現の難しさを学ぶことができた。
· チームワークの向上
キャスト・スタッフ間で協力しながら、練習と準備を重ねることの大切さを経験した。
· 多様な音楽表現の試み
独唱、二重唱、合唱による声質・声域・声幅などの組み合わせや、曲の雰囲気に合う楽器の選定やアレンジなど、幅広い音楽表現に挑戦した。

2）課題

· 実践計画の困難
音楽劇による大道具・小道具制作に時間を要し、音楽の技術面や演出に影響した。今後は、より具体的で綿密な計画が必要であり音楽以外の準備時間をどのように工夫し音楽の練習時間にあてるかが今後の課題である。
· 応用技術の向上

音楽表現の基礎力は身についているものの、創造力・発想力の不足が課題として浮かび上がった。日常的に音楽を聴き芸術に触れてはいるものの、他のジャンルにも視野を広げ、多方面からの経験が求められると感じる。

本プロジェクトは、音楽表現や教育現場での応用を考える上で、個々の努力とチームの努力の両方が技術の向上に大きな影響であり演奏を通して大きな学びとなった。また保育者を目指す学生にとって音楽劇は、心身の健康に関する領域 「健康」、人との関わりに関する領域 「人間関係」、 身近な環境との関わりに関する領域 「環境」、 言葉の獲得に関する領域 「言葉」 感性と表現に関する領域 「表現」の 5 領域が総合的に組み込まれていることを意識しながら実践経験をすることで、子どもたちの個の成長と集団としての活動の充実を図ることができるようになると感じる。さらなる技術向上と発想力の鍛錬を重ね、課題解決と生演奏による研究目標の充実を目指していきたい。

＜参考文献・資料・楽譜＞

１．日本語でうたおう
ディズニー・ベスト・ソングス Vol.2
（ヤマハミュージックメディア）
２．いっしょにうたおう
ディズニー・ソング・コレクション
（ヤマハミュージックエンタテインメント
ホールディングス）
３． ヤマハぷりんと楽譜